

梅雨の候 宮崎県防衛協会青年部会 宮崎支部会員の皆様におかれましては、三密を避けて息災にお過ごしのことと、ご拝察申し上げます。

6月も自衛隊関連行事は全てキャンセルで、皆様にお知らせすることは無いのですが、さらに毎年8月に催行される各種イベント中止のご案内がポツポツ手許に届いて来ました。

先月、県外移動等を含めた様々な活動自粛が解禁された途端に東京や北海道ではクラスターが発生して、すわ第2波発生かと国民に緊張が走りましたが、政府はさかんに否定報道の繰り返しで、専門家会議との軋轢があるようにも思えます。

先月の支部長通信でこの新型肺炎に関するご意見を募集したところ、初めて当支部の田中弘志会員から貴重なご意見を頂きましたので、本人のご了解を得て以下に掲載致します。

\* \* \* \* \*

小倉さん、6月の防衛協会の会報で意見を聞かれたので、小生の考えを披歴させてもらう。

結論を言うと、小生はウィズコロナの時代への対応として産業構造の変革に賛成するものの、コロナの病疫自体に対する対応は反対だ。ウィズコロナと言いながら、第二波を恐れて自粛を促すのは共存ではない。ウィルスは蔓延させるのが遺伝子的使命であるから決して消えてなくなることはない。むしろ次から次へと新手を繰り出して来るものだ。まさしくコロナと共に生きなければならない。死ななければ良いのだ。

先ず産業構造の変革として、この機会に農林水産業に大きくテコ入れし、食料自給率を高めることが急務だと思う。また、空洞化してしまった製造業を国内に回帰させることが重要だ。国際競争力を付けるために、コストダウンばかり追い求め廉価労働力を国外に求めた結果が、危機的状況を生み出したことを考えれば、多少競争力が落ちてでも安定した国内完結型に移行すべきであることは自明。そうすることで雇用が復活、内需もそれに伴って増えて来る。そもそも日本製は“少々高いが、高性能”で世界から引っ張りだこじゃなかったのか？発展途上国からの受注が、中国や韓国の“安かろう。悪かろう”の廉価攻勢で覆されたことがトラウマになっているのだろうが、化けの皮は剥がれつつあり、今こそコストに担保された真の成果物が評価される時だ。

また、第一次産業への公的資金支出は、TPPなどの関税撤廃の流れに対抗するために必要だと思うが、第二次産業に投入することには反対だ。それは韓国の現状を見ればわかるように集約化に向かい、結果的に勢いを失う。また社会主義的企業風土が醸成され、サボタージュの温床となるからだ。

さて、新型コロナウイルス対策はどうだろう。小生はこのバカ騒ぎは何なんだろうと不思議でたまらない。この5か月でコロナウイルス感染者の内900人余り死んだことが、国を挙げて外に出ず仕事も出来ない状況を生み出した原因だということが理解できない。年間に日本人は140万人弱死亡する。単純に平均すると12万人弱が1ヶ月間に亡くなる。5か月間で約58万人だ。900人と言ったら、その0.16%だ。しかもその900人余りの80%が70歳以上だというから、そんな大げさな対応を取るほどの重大事には思えないんだが…。日本人の人口が劇的に減っていれば別だが、添付資料（政府公表が2か月後なので3月末が最新）のように死亡者数は去年より少ない。小生は、この新型コロナウイルスへの対応は、従来のインフルエンザと同等で十分と思う。以上

\* \* \* \* \*

正に「談論風発」、我が宮崎県防衛協会青年部会宮崎支部は、年齢や職業など様々な方々の有志の会ですから、「広く会議を興し、万機公論に決すべし」の「五箇条のご誓文」に則った運営を心掛けたいと存じます。

ところで本日「香港安全法」が成立して、23年前英国から返還された際に中国共産党が香港市民及び国際社会に約束した「返還から50年間は高度な自治を認める一国二制度」は空文となり、形骸化されてしまいました。

日本のように時の総理大臣を呼び捨てにしようが、馬鹿呼ばわりしようが一切お咎めなしの国では想像も出来ませんが、中国では共産党や習近平主席をちょっと批判しただけでも国民を逮捕するお国柄ですから、香港市民は今後貝のように口をつぐみ生きていかねばならず本当に心配でなりません。

また日本のような法治国家ではあり得ない事ですが、これまで合法的だったデモ参加者や香港独立論などで論陣を張っていた多くの香港市民が、台湾やその他の国へまるで亡命するかの如く国外退避しているのは、本日成立した「香港国家安全維持法」では遡及して訴追されるのではないかと懸念から来ているようです。

その最高刑罰は終身刑とのことで、まともな裁判が期待されない中国では批判分子を一網打尽に捕らえて生涯刑務所に閉じ込めておく目的で作られた法律とも仄聞しています。

「香港」の次は「台湾」、その次は「尖閣」、そしてその次は「沖縄」、さらにその次は「日本」と想像を膨らませるのは私だけなのかも知れませんが、単なる悪夢であって欲しいと願わずにはおられません。今回もまた皆様のご見識を賜れば幸いです。

間もなく暑い暑い夏が始まりますので、呉々もご自愛専一にお過ごし下さい。

令和2年7月1日

宮崎県防衛協会 青年部会 宮崎支部長 小 倉 和 彦